

プラスマイナスの当り年

浅井辰郎

1970年昭和45年は国際的にも国内的にも何か意義のある年、あらしむべき年として始まったように記憶する。それがお茶大の地理学教室には次のように、プラスの年として現われた。例年の科学研究費は地理の全教官に対して50万円程度であったのに、45年には350万円の1口と80万円の1口が来た。このおかげで教室はもちろん、全学部でも全機能は駆使できないのではないかと思うほど立派なM2型マイクロフィルム撮影機(125万円)、学生が全国どこへでも携行して資料撮影に使えるニコン接写装置(20万円)、浅海先生待望のエンジン付きスウェーデン製携帯用ボーリングマシン(70万円)、今度の卒論作成に学生間で引張り舐だった8メモリー付卓上電子計算機(31万円)、筆者が永らく狙っていたゴルテンスキー日射計とその記録計各2台(23万円)などがまず入手できた。同じころ到底当りっこないと思っていたのに、日本の地理学界最初の米国バーンズ社製赤外線放射温度計IT-3型を買う特別設備費145万円がパスした知らせが入り、年末には稀有の出物であるアジアの5万~25万分の1の詳しい地図約16,000枚を買いたいと事務局長から会計課長にお願いしてあった220万円が、これまた幸いにも文部省を通った。これを当り年と云わないで何があるのか？

さてこれら巨額の備品はすべて順調に入荷が完了し、着々と使用され始めているが、なおこの上とも教官、学生が充分に研究し教官に活用して納税者の負担に応えねばならないと思っている。

このような文を読む方はいろいろな読み方をされるだろうが、金額でなくて性能や耐久力で計って下さる方を私は最も歓迎する。それは吾が母の態度でもあったからだ。骨折で入院中の母に、上の諸器械がいよいよ買えるようになったと話したとき、母はその用途の全部は理解できなかったろが、性能については77才の女性とは思えない好奇心と情熱を示して、「よかったねー」と喜んでくれた。今にまざまざと耳に残る理解者の声であった。しかしカタログ集め、購入手続と忙しい夏を過している間に母は次第に衰弱して行った。出勤の前後に食事を運んだり、好きなテレビが切換え易いよう手元の台を作ったりしたのも甲斐なく、ついに10月4日午後、私が翌日に迫った母の転院準備に外出している留守、母は静かに息を引き取ったと云う。プラスの当り年に何の原因も関

連もないからよいものの、これに比較できない大きなマイナスであった。葬儀、初七日、四十九日、納骨ころまでは忙しさに紛れていたが、最近になって遺品を整理したり、聞きたいことが出て来たりすると、この生死の境が何とも無限に遠いこと、如何とも連絡の仕様が絶対ないこと、をつくづくいやという程思い知らされて、目頭の熱くなっている自分に気付くことが時々ある。そして「幽冥境を異にする」とか「あの世に待つ」とかの語がいかにも空虚なものかと腹立たしくさえなる。さらに想いを馳せるなら、まごまごしていれば人生とは何と早く、はかないものかとも反省させられる。しかし今の私はここでむらむらと「充実した人生を、今からでも送ろう」と決心する。こうして当り年のマイナス部分を母とともに善用して行きたいと願ってやまない毎日である。

文教育学部新棟の建設のこと

浅 海 重 夫

文教育学部の新校舎の建築が、昭和45・46年度の継続工事により、47年2月完成の予定で着工された。この新棟の設計原案を練る建築委員会が学部組織されたのは、4年前の42年2月であった。各学科1名ずつの委員の中で、地理学科代表であった私は、数字に弱くない（はずの）唯一の委員ということで、各科配分面積の算出や建物設計試案の提示などをまかされたために、44年頃から委員長にされ、工事終了までの委員会責任者となってしまった。これは私にとって甚だ不似合なことに思われた。第一、地理を専攻しているからといって、誰もが数字に強いとは限らない。また委員長ともなれば、利益代表として集まった各科委員の主張を、うまくさばいていかなければならない。さらに予算をよこす文部省側との折衝があって、これは一そう面倒な仕事である。しかしその折衝も昨年（45年）秋までに終り、工事の着工をみたいま、これらの難問をどうにかきりぬけたことについて、われながら不思議

元来数字を扱うことや建物の設計図をいじくることは決して億劫ではない。弱くないというより嫌いではない。この点は私にとって幸いであった。次に学部内の配分に関して公正と協調の精神を買いたこと。委員長として最大の、あるいは唯一の配慮はこの点にあったといってもよい。私が委員長であったために損をしたと思われるのは地理学科である。文部省との設計図の協議過程で、事実そのような場面が何度かあった。古来領地争いというものは深刻だといわれる。将来への禍痕を残さないために、学科間のバランスについて最善の努力をしたつもりであって、地理が特別